

平成27年度第1回 倉吉未来中心運営懇談会 概要

日 時:平成27年8月26日(水)、8月27日(木)、9月1日(木)

19:00~20:30

場 所:倉吉未来中心館長室(8月26日、27日)、応接室(9月1日)

1 開 会 進行:藤野総務部長

2 挨拶 西川館長

平成26年度までは、未来中心の施設を利用した事業を中心に実施し、文化芸術の愛好者拡大が主な目的であった。しかし、平成27年度以降の事業計画に向けては、地域との連携を深めながら実施していきたいと考え、委員の皆様と連携についての具体的な意見を伺ったところである。

しかし、連携についての具体的な内容を伺う前に、未来中心が現在考えている方向性でいいのかという議論があまりなされていなかった。今回の運営懇談会では、全国における文化施設の方向性(資料5:震災後の被災地では、ホールはコミュニティの場所として地域を活性化する存在)や地域活性化への取組み(資料6:公共ホールが地域を活性化するには)を参考にしながら、今後の地域との連携・協働への取組みを説明させていただき、未来中心の5年10年先のあり方についてご意見を伺いたい。

活発なご意見をいただくということで3名~4名という分科会形式で開催した。本日伺ったご意見は、今後の方針とするばかりではなく、平成28年度の事業計画の参考にしたいと考えている。

3 出席委員紹介 ※出席委員:出席者名簿のとおり

4 資料説明

資料1 平成26年度倉吉未来中心事業概要

資料2 平成27年度倉吉未来中心事業概要

資料3 倉吉未来中心と各分野との連携・協働への具体的取組

資料4 倉吉未来中心の芸術文化を通して行う地域活性化への取組

資料5 災害における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究

資料6 劇場は地域を活性化できるか

資料7 平成26年度第2回運営懇談会概要

5 意見交換

【意見交換の内容】

平成27年8月26日(水)

(委 員) 今後の1市4町連携の計画、サイクルは？

(未来中心) 今年度は三朝町を計画している。4町は近くて遠い印象であるが、どうつながっていくのが課題である。

(委 員) 市としても4町に負担していただいているので、4町にも身近な施設になってほしい。バイオリン美術館、三朝町、未来中心との協働公演はどのようにコラボするイメージなのか？

(未来中心) 具体的な内容は、三朝バイオリン美術館音楽監督がプロデューサー的な存在となり、竹のバイオリンという貴重なものを全面に出したコンサートを小ホールで実施する。地域の方に未来中心へ来ていただき、三朝町のことをより知っていただく機会とする。中学校の合唱の活動が盛んであるため、若い人達の発表の場ともなる。中学生の送迎のために町営バスを出していただき、三朝町特産品の販売、観光パンフレットの設置などでもできる範囲で実施

する。

(委 員)

三朝町以外の町にもアピールすることが必要である。

三朝町はバイオリン美術館があり連携しやすいが、他の町は時間をかけて作り上げていかなければならない。

(未来中心)

コーディネーター役の人を見つけ、核となっていくことが地域の活性化につながる。琴浦町はカウベルホール、湯梨浜町はアロハホールがあり連携を深めつつあるが、北栄町にはホールがないので、JAや観光施設などとの連携を検討していく

(未来中心)

中部で和太鼓のネットワークを立ち上げ、未来中心も連携を考えている。太鼓活動者の横のつながりができてくれば地域の活性化にもなる。

舞台技術の基礎講座として、社会人、高校生向けの「舞台スタッフ養成事業」を始めた。また、保育園・幼稚園の生活発表会でホールを利用していただき、保育士を目指す学生が将来の役に立つよう、鳥取短大へ舞台出前講座を実施した。

(委 員)

短大でもステージに関する技術、知識が必要なので、講座はありがたい。現場で働くには知識が必要である。

(委 員)

学校の発表会は送迎のこともあり近隣の学校しか利用できないが、希望はたくさんある。ステージの裏側はホールでしか体験できない。今後のことを考えると、少子化により高校の演劇部や、合唱コンクール参加校も減っている。横のつながりをどうしていくのか、学校現場も苦慮している。

1市4町協働事業を次へつないでいくためには、次回予定の町が見ておかなければつながっていかないのではないかと。重なり合いながら実施しないと、単発でも意味がない。

(委 員)

なんらかの関わりを持たせ、単発で切れてしまわないような工夫が必要である。

(未来中心)

コーディネーターのような人材育成が必要である。人口減少を黙って見てもいけない。中部で生活する人がより住みやすい町となるように、子育て支援などに特化した取り組みも考えている。

(委 員)

乳幼児向けコンサートは、県との連携協働があるのか。県は子育て王国を名乗っているのに、県にもPRをしていただくなどの支援があってもいいのではないのか。

(未来中心)

現在、県との協働というものはない。今年はマスコミとの特別共催により連携が始まったところである。鑑賞公演にも力を入れ、著名なアーティストが来ることにより県外からも中部に人が集まるといった形も地域の活性化になるのではないかと考えている。

(委 員)

今年のとりアート中部地区事業の進捗状況はどんな感じか？いろいろな形を変えて東中西で開催しているが、認知度や盛り上がり状況はどうか。

(未来中心)

去年は、中部地区の日本海新聞へ折り込みチラシを入れたこともあり、延べ1万人の入場者となり、認知度は上がっていると思う。とりアートは県の総合芸術文化祭ということで、文化芸術の底辺の拡大が目的である。全県を対象とした広報部会はあるが、まだ知らない人をどういう形で掘り下げていくのが課題である。

(財 団)

県からとりアートの事務局が文化振興財団に移管されてから、財団のマネジメント力を活かして、民間と一緒に盛り上げ、各地区事業は活発化している。今後の新たな展開を模索しているところである。

(委 員)

開催時期であるが、10月、11月の土日は、いろいろな事業と重なり、行きたくても行けない。

(未来中心)

西部は1月、2月に実施しているが、いろいろな課題もある。大ホールの利用率のこともあり、閑散期の4月・5月・9月の開催も検討の余地がある。

(未来中心)

看護大学が開学し、文化系サークルの発足はどうか？なかなか学生のコンサート鑑賞者が増えない状況で、増やしたいと考えているが。

(委 員)

大学と短大と一緒に活動しているので、アプローチするなら一つと考えればよい。県内

では通学生(鳥取、米子)が7割程度と多いので、夜公演の鑑賞は難しい。

(委員) 看護大学による学会開催予定は？学会が開催されれば、経済的にも地域の活性化になる。

(委員) 毎年、とっとりコンベンションビューローより学会予定の調査がある。看護大学では毎月第3水曜日に「まちの保健室」を開催し、血圧や骨密度測定などを行っている。未来中心が地域のコミュニティの中核と考えているなら、「まちの保健室」を定期的に置くのも効果的ではないだろうか。

(委員) 看護大学も地域との密着を図っている。福祉との連携・協働事業の時には、「まちの保健室」が必ずセットであるとかいいかもしれない。

(未来中心) 連携・協働事業に組み込み、数ヶ月に1回を未来中心で開催していくようなことを検討したい。

(委員) 健康というテーマは皆が興味ある。未来中心にふらっと来れば何かイベントをしており、アトリウムを要として、つながっていけばいいかもしれない。図書館、広場、未来中心の三角地帯をつなげ、見て食べて感じることのできる場所になることが必要である。

(委員) 乳幼児向けコンサートで看護大学の小児・母性の専門講師を招き、相談コーナーを併設するなどどうか。

(未来中心) コラボも広がりを持たせ、連動し次へつながらなければ限定的となってしまう。未来中心での移動図書館や合同でニュースレターの発行など、パークスクエア内の連携は進めつつある。貸館だけではなく、地域との連携を進めていくという方向性は共通認識できたと思う。連携を始めたばかりであるので、今後ご意見を頂戴したい。

(委員) とりぎん文化会館のフリースペースでは、市民が座って憩いの場であるイメージがある。アトリウムのレイアウトは、休憩スペースが端に追いやられ、憩うイメージがない。

(未来中心) 設計者の意図は、通路のイメージで作っており、当初は休憩スペースの設定もなかった。構造的に他に休憩スペースを設けることは難しいが、2階の観覧席も自由なスペースとして使っていただけるといい。

平成27年8月27日(木)

(委員代理) 集客のことを考えると、県民に情報が伝わっているのかと感じる。事前資料を見て初めて甲斐よしひろコンサートがあることを知った。コンサートによってターゲットを決めると思うが、ターゲットにはまるということが、集うことに必要なのではないかと。

(未来中心) チラシ、新聞、HP等でPRしているが、絶対数が少なくて目につかない印象なのか。実際、一般の人がどの程度情報を見ているのかわからない部分もある。

(委員代理) 県民が未来中心に求めるものが何であるのか。文化だけではなく、位置付けや認知度はできていると思う。農協としては、梨栽培も文化の一つであり、食を通じた集客の手伝いはできる。

(未来中心) 未来中心の設立目的は、人と人との交流、地域の活性化を図ることであり、文化振興財団としては文化芸術を通じた事業を実施することにより、地域の活性化を図りたいと考えている。農協とも何らかの形でつながることによって地域の活性化になるかもしれないので、できることから始めたい。

(委員) 地域が求めているものは何であるか、地域の人が聴きたいものが何であるのか調べてみたほうがよい。運営懇談会委員が地域の代表としての意見と思われても役が重たいので、地域の人に来てもらおうと思えば、直接アンケートをとってもいいのではないかと。

(委員) 利用率のこともあるし、何をターゲットにするかによって未来中心に求めているものが違う。ここを利用しよう思っても、老人クラブや公民館などはバスを持っていないと来られな

い。ここでバスを持つとなると維持管理料が大変かと思うが、有料無料があるが送迎などではどうか。交通機関が整えば利用しやすくなる。ここに来れば地域の人のふれあいから、いろいろな輪が広がる。交通の便から言えば、送迎ということもあってよいのでは。有料でも便利な方がいいという人もある。

(未来中心) 駅からの距離もあり、バスも午後7時台で終わってしまう。道路標識も倉吉未来中心と表記されていないなど、交通面での問題がある。送迎バスを持つことは難しいかもしれないが、交通手段の選択肢が広がれば、より利用やすくなると思う。

(委員代理) 当社としては買取り公演もリスクがあるため、財団と共催しながら提供していきたいと考えているが、何本もできないので見極めながらしていきたい。

先日、東京二期会が未来中心で公演を行った際、クオリティが高くすばらしい施設であると聞いた。この良さがまだ知られてなく、大きな可能性を秘めているため、国の事業などへもっと提案できるのではないかと。

(未来中心) 未来中心は、建築音響的に整っており、演奏しやすいホールである。県内でも長い残響のあるホールであり、音楽専用ホールとして名乗ってもよいくらいである。

(委員代理) ホールの特性を売りにしてセールスすれば、もっと公演を引っ張ってこられるのではないだろうか。

(未来中心) 公演の時に旅館などの割引などができればと考えているが。

(委 員) 観光施設や宿泊施設の割引は内容によっては可能である。ただし、県外の人から割引目的で来るなら、前段の情報が必要であるので、いつまでに情報をいただけるかである。著作権の問題などがクリアできれば、コンサート情報のバナーを貼るなどでもできる。

(未来中心) 財団のチケットは3ヶ月前より販売する。いろいろなことをクリアし、広がりを持たせながら具体的な連携に絡めていきたい。

(委 員) 演奏者の視点で考えれば、温泉や宿がいいとなれば、あそこでやりたいと思っていただける。協力できることはさせていただく。

(未来中心) 未来中心の認知度や周知が不足しているということであるが、どのような形だと伝わりやすいのか。

(委員代理) アンケートを採るところにより、一般の人が未来中心に何を求めているのかわかるのではないかと。貸館で終わってしまうのか、文化を通じて地域と連携を図り活性化を図ることが見えてくると思う。

(未来中心) 会館利用者からのアンケートは実施しており、意見を把握できているが、事業の展開については把握できていない。どのようにニーズを把握していくのが重要である。

(委員代理) すばらしいホールであることが外に向かって情報発信ができてきているのか。地道な積み重ねであるが、相手とどんな関わりを持って問いかけしていくのか、ということが調べるポイントである。そこから次のニーズが見えてくる。未来中心として3年、5年、10年後の構想はあるのか。

(未来中心) 開館当初は貸館が主であり、文化事業へのビジョンが不足していた。平成18年度からの指定管理者制度導入を機に、貸館だけではなく、気軽に文化芸術に触れることのできるコンサートの実施などで愛好者の拡大はある程度図れた。その後、未来中心に求められているものが何であるかを考え、文化団体や学校、福祉施設などと連携しながら地域を活性化していく方向へと進めている。また、人口減の問題などによる地域のニーズの把握し、特色を出しながら実施していきたい。

(委 員) 市民に開かれた貸館と自主事業の実施を、両輪でしていくということなのか。どちらかに比重を置くと言う議論なのか。

(未来中心) 二本立てでしていかなければならないが、自主事業もマンパワーや財源のことがあり、ある程度絞って実施しなければならない。

(委員代理) 敷地内全体が多目的機能を備えたコミュニティという形で造られており、子どもの時から

遊具や梨記念館に足を運ぶ。子ども達が舞台上に立つということを大事にし、集いの場所として残してほしい。

(未来中心) 海外のホールは我が町のホールとして根付いているが、日本ではまだ根付いていない。もっと敷居を下げて、街づくり、人づくりをしていかなければならない。

(委 員) 小中高校との授業の取り組みや館との連携はしているのか。

(未来中心) 高校の職場体験、小中学校のユニバーサル研修、高校演劇部員向けの舞台スタッフ養成事業など実施している。小学校の音楽会も近隣の学校だけとなっており、遠方の学校は利用したくてもバスの費用の問題がある。

(委 員) 音楽の授業がここでできればおもしろい。いい施設であることを知ってもらうことができ、興味のある人だけではなく、ない人にも知ってもらうことができる。バスの送迎などは誘致支援事業として実施すればよいのでは。

(未来中心) 三朝町との協働公演では、三朝町のバスを出していただくが、これも広がりの手だてのひとつと思う。

(委 員) 全国大会、中国大会などで未来中心を目指すようなものがあれば、地元も注目してくる。

(委 員) アトリウムでいい音楽を流したりして、常に音楽を感じる場所であっていいのではないのか。今のままでは貸館のままで終わってしまう。

一般の人は未来中心が使えることを知らない。利用料もわからなくて高いイメージである。利用者を増やしたいなら、地区公民館等へ営業展開をされてはどうか。大ホールの利用は財団や企業がしていく事業である。我々ができることは地域との関わりの部分である。

平成27年9月1日(火)

(委 員) 未来ウォークを中心として施設を利用することにより、ウォーキングリゾートとして地域への発信源の場所であることを訴えており、継続してコラボをお願いしたい。県の子育て王国のホームページでサイトの運営をしているが、イベントを紹介するページや子育てパスポートの割引など利用すれば、情報発信源の手法となるのではないのか。県に情報提供していただければ、我々でアップすることができる。

地元を力を入れているのは感じるので、コミュニティの場所になってきていると感じる。イベントを継続して実施していくことで文化になる。芯のある方針でやっていけば、5年10年後、地域にとって必要な施設であると認められ、それなりの収入につながっていく。地域との連携を活発化することは、方針としてはいいと思う。他施設がしているような〇〇教室をすることによって、年輩の方達のコミュニティの場となるような手法もある。

(未来中心) 最近、ピアノを習う子供は多いのか。

(委 員) 教室にもよるが、ピアノを習う人口は減っていないので、少子化とピアノ人口は比例していない。一段落した大人が習い始め、発表の意欲もある。大人の方が熱心である。音楽大学に進学する学生は、収入面など将来の現実を見て減少している。

(未来中心) 弦楽器をする人は少なく、合唱の人口は多い。やりたい人はたくさんいるが、習いに来る人は一部である。いろいろな方向性の引き出しを用意することが必要である。

(委 員) 未来中心に来れば常にピアノが置いてあり、誰かが弾いているような場面があってもよい。そういう場面がないと触れる機会がない。三朝バイオリン美術館がそういう雰囲気である。

(未来中心) 以前、アトリウムでオルガンを自由に演奏体験できる企画を実施したこともある。誰でも弾けるとなると演奏レベルのこともあり問題がある。

(委 員) 貸館の面で、全国大会等の誘致も、観光にもつながり地域との連携になる。大ホールの利用率が上がらない原因は利用料金ではないのか。500人位の利用なら大ホール1階を半分ロープで仕切るなどして小ホール並の料金になれば利用も増えるのではないのか。7

00人集まるイベントでないと、大ホールが使えない印象である。

(未来中心) 1500人のメリットもあるので、ここを売りに出していく。超有名人でなければ2000人のキャパを満席にすることが大変である。

(未来中心) 貸館だけの一過性のものではなく、いろいろな人と連携していくようなイメージはないか。
(委員) ストリートミュージシャンが街で演奏しているような雰囲気であトリウムにピアノがあればいいと思う。ピアノの状態や環境のこともあり難しいが、ピアノに限らず他の楽器でも定期的にミニコンサートがあり、自然な形で市民が音楽にふれあえるような環境になればよい。未来中心に行けば常に音楽があるようなイメージである。

(未来中心) 昨年実施した音楽プロムナードのイメージかもしれない。
(委員) ピアノ教室同士で生徒を出してミニコンサートを開き、音楽が高尚なものでなく気軽にできるものである環境が定着できればよいが。

(未来中心) これまでのように文化芸術の底辺の拡大を図ることも必要であるが、今後は、各分野で連携し特徴を出していきたい。地道なことであるが、子供の頃から音楽に触れる機会があるということも必要かもしれない。

(委員) コンサートはチケットを買い目的を持って行くが、ふらっと立ち寄ったところで音楽が聞こえてきて、芸術文化が人の暮らしと密接につながっていけばいいと思う。

(未来中心) みらい音楽堂では、たまたまアトリウムでコンサートをしているのを聞いて良かったという意見が多い。これが、街の文化度であると思う。

(委員) どこかに特化していけば、それが特色になる。文化芸術の場所であるというイメージはできているので、今後高めていけばよいと思う。

(未来中心) 舞台スタッフ養成事業では、地域のイベントで下支えするスタッフの広がりが増え、いいものができくる。

(未来中心) 管理運営費の中には事業費というものがない。名目としては利用促進のために事業を実施している。県文が全県の文化振興という目的があり、予算もたくさんあるが、未来では限られた予算の中で、実施していかなければならないのでご理解いただきたい。

(委員) 開館15周年事業は実施するのか。地元出身のいろいろな分野のアーティストの公演を一同に介してできれば、次へつながっていくのではないだろうか。

(未来中心) 15周年は検討中である。最近の中部で実施する鑑賞公演は高尚なものではなく、知名度の高い人の公演が多い傾向にある。

5 閉 会

【懇談会の様子】



※8月27日(木)